

小学校 家庭科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

整理・整頓の仕方を考え、身の回りを快適に整えるために工夫することができる。

思考力の育成

学年 第5学年

題材名 めざせ！片付け名人

本時の目標 雑然とした文房具の状態を見直し、使いやすさを考え、自分なりに整理・整頓を工夫することができる。

学習の流れ（1時間目/全4時間） 《3時間目は家庭での実践の計画 4時間目は実践後の交流会》

言語活動の充実

言語活動の充実

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 整理・整頓について課題意識をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と一緒に使う、収納ボックスの中にあるトレーの設定にする。散らかった文房具を見て感じたことを自由に発言させる。散らかっていて使いにくそう。必要な物を探すのが大変。見た目も悪く気持ちよく過ごせない感じがする。 ・なぜ散らかるのか原因を考えさせる。 	<p>雑然とした文房具の状態を見直し、使いやすさを指して考え、自分なりに整理・整頓を工夫している。〔生活を創意工夫する能力〕(行動観察・発言・ワークシートの記述)</p>
2 班ごとに文房具の整理・整頓の仕方を話し合う。 学習のめあての確認 - めざせ！片付け名人 - 整理・整とんのコツを考えよう！	<ul style="list-style-type: none"> ・使ったものを元に戻さない。誰かが片付けるとしてそのままにしてある。忙しいからできない。 ・使いやすくするためには、どのような工夫をしたらよいか自分の考えをもたせた上で、班ごとに活動させる。工夫のポイントを板書する。 〔同じ種類の物をまとめよう。しまう位置を決めておこう。〕 	
3 班ごとに文房具の整理・整頓を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文房具を実際に整理・整頓させる中で、いろいろな整理・整頓の工夫を見出せるようにする。 ・班員で話し合い工夫しながら整理・整頓を進める時、活動しない児童がいないよう「意見をまとめる」、「メモを取る」、「意見をもとに整理する」等の役割分担をさせる。ここで、不要になったトレー、筒、箱、紐等を事前に準備しておき使用してよいことを知らせる。また、トレーの出し入れを試せるよう、収納ボックスを置いておく。 	
4 整理・整頓後の文房具紹介コーナー時間をとり、他の班の整理・整頓の工夫を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・整理、整頓を行う前に考えた工夫や、新たな工夫を発見したことについて各班でまとめさせる。また、なぜそのように工夫したのか理由と一緒に他の班に紹介させる。 	
5 多くの班が行っていた工夫や特定の班だけが行った工夫などを出し合い、そこから整理・整頓のよさをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介コーナーでメモしたことをもとに、自分たちの班と他の班との共通点・相違点を明らかにしながら、整理・整頓の工夫とそのよさをまとめられるようにする。 ・まとめで児童が気付いてない視点については、活動の様子や片付けた文房具を例に示して説明する。 	
6 次時への課題をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、共有スペースである図工室をみんなで整理・整頓することを知らせる。 ・みんなが使いやすくなるための工夫について、家族や周りの人に聞き取りをしたり、整理・整頓に必要なと思うものを持ってきたりして、アイデアを持ち寄るようにさせる。 	

指導のポイント

実践的・体験的な活動の前に、問題点や解決方法について考えさせる

本時では、的確に思考、判断、表現できるように体験の目的を明確にするための時間をつくります。活動する前に、なぜ整理整頓をするのか、なぜいつも雑然としているのかなど、**問題点や原因に気付かせ**、その**解決方法や工夫を考えさせた上で整理・整頓をさせています。**

課題の提示

児童にとって身近な題材を取り上げると学習に意欲的に取り組みます。



感想は・・・
・使いにくそう。
・見た目が悪い。

原因は・・・
・使った物を元に戻さない。
・忙しくて片付けられない。

感じたことを出し合う

散らかっている状態を見たときの、様々な人の思いに触れさせることにより、整理・整頓の必要性に気付かせます。

原因追求

なぜこのような状態になるのかを考えることにより解決の糸口にします。

解決方法を考える

問題点を解決するために、どのように工夫するのかという目標を設定させて整理・整頓をさせます。

まず、個人で考えさせます。その後、付箋を使って、個人の意見を班で整理させます。考える過程を大切にします。



この学習で身に付けた基本的な技能を活用させるため、一般化させる

体験して気付いた方法を出し合っただけで、学習を終えるのではなく、どのような物、**どのような場所でも活用できる整理・整頓の技能**を考えさせ、次時の実践において技能を活用できるようにまとめさせることが大切です。

体験後

体験して気付いた方法

鉛筆が散らからないように、筒を使って鉛筆を立てた。
メモはよく使うので、取りやすいように手前の方に置き、しきりをつけた。
何がどこにあるか分かるように重ならないように入れる。
たくさん物があるとゆとりがないので、使う物だけを残し、取り出しやすくする。

話し合い後

話し合い
で整理
する

〔片付け名人の技 5つのポイント〕

何がどこにあるか分かるように箱などに中身を書いておく。
よく使うものは、すぐ取り出せるように取り出しやすい場所に置く。
種類別、大きさ・形別に分ける。
物が混在しないように、仕切りなどを付ける。
空間を有効に利用する。

新学習指導要領では

生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実させることを重視

今回の改訂では、言葉や図表、概念などを用いて、自分の課題に基づき生活をよりよくする方法を考え、**実習など実践的・体験的な活動をしたことについて説明したり、話し合ったりするなどの学習活動を充実**するように配慮することが求められています。

本時の学習活動2では、実践的・体験的な活動前に解決方法を考えさせることで**考える視点**を与えます。また、学習活動4では、整理・整頓しながら考えた工夫について理由をつけて発表させることで、**なぜそうするのか**ということに気付かせます。まとめでは、今回の実践的・体験的な活動で身に付けた技能を日常的な**家庭生活で活用できる力**に変えていきます。